

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録(第15回)

PROCEEDINGS OF THE 15th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1991)

国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 15th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1991

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

目 次

あいさつ	小山弘志	3
------	------	---

研究発表

日本の神話伝説と中国雲南省納西族の 神話伝説の諸問題をめぐって	彭 飛	9
山上憶良歌の梵志体の影響	山口 博	24
「からころも（韓衣・唐衣）」考 — 歌語の実態と消長 —	片岡 智子	38
源平盛衰記と太平記 — 方法としての説話 —	松尾 葦江	60
『沈清伝』と近松に見る親子関係	明 眞 淑	69
水滸伝と八犬伝	盧 翠 雲	78
夏目漱石と朱子学 — 「動」と「静」を中心に —	余 炳 躍	87
『武州公秘話』における谷崎潤一郎の 美学の特色	Mikolaj MELANOWICZ	98
『金閣寺』論 — 三島由紀夫の変身物語として —	許 昊	108

公開講演

江戸時代の随筆をめぐって	日 野 龍 夫	127
遠いものと近いものと — 正岡子規の現実意識 —	Jean-Jacques ORIGAS	148

記 録

第15回国際日本文学研究集会記録（1991）	165
参加者名簿	166
国際日本文学研究集会委員会名簿	170

あいさつ

小山弘志

雨の中をお運びいただきまして、まことにありがとうございます。この集會も回を重ねて第十五回となりました。

おかげさまで、順調に進んでおり、手順もほぼ整って参りました。今日、明日と行われますこの集會は、そのために委員会が設けられておりまして、館外からも数名の方にその委員をお願いしております。お名前を申し上げますと、まず現在委員長をお願いしております、福田秀一国際基督教大学教授、それから、糸川光樹明治学院大学教授、アラン・ターニー清泉女子大学教授、芳賀徹国際日本文化研究センター教授、平岡敏夫筑波大学教授、山下宏明名古屋大学教授でございます。以上の方々とともに、館内の者も加わりまして、この委員会で集會のための準備とその運営とにあたっております。

今回は応募が十五件あり、その内から七件を採択いたしました。プログラムにありますように九つの発表がございますが、あとの二つは私どものほうからお願いしたものでございます。その方法は、採択された七件を主として時代によって三つのグループに分け、二件しかないグループの所をそれぞれふさわしい方をお願いすることにしたのです。今回お願いしたのは、山口博新潟大学教授と松尾葦江椋山女学園大学教授とでございます。

このような方法を採用することもありますし、また、応募の中から九件を採択することもございます。この集會は当然のことながら外国の方の応募が多い、私どもはもとより、それを大いに尊重していきたいと考えておりますが、同時に日本の現在の第一線の国文学者の発表も入れていきたいという気持があります。もちろん、応募して下さる方の中にそのような日本の研究者がおられることもございます。今回は特にお二人の方をお願いした次第でございます。

ところで、プログラムが決まりましてから、明日の午前の近代の所で、お一人の方が辞退なさいました。それで、急なことでたいへん申しわけなかったのですけれども、ワルシャワ大学のメラノヴィッチ教授にお願い申し上げましたところ、御快諾をいただきました。メラノヴィッチ教授は、現在、国際日本文化研究センターの客員教授として京都においでであります。まもなく御帰国と伺っておりますが、お忙しい中を私どものために発表していただきますこと、まことにありがたく存じます。

なお、プログラムにありますように、三つずつに分けた研究発表のそれぞれの座長は委員の先生方をお願いいたしました。

おことわりがございます。二三の発表題目がこのプログラムに記されているものと若干変更されております。このめくりや発表要旨に記されているのが正しい題目でございます。

さて、明日の午後には公開講演がございます。これは、例年その時期に客員教授としておいでになっている方をお願いすることにしておりまして、それで今回は、フランスのジャン-ジャック・オリガス先生をお願いいたしました。オリガス先生は数日前の十一月五日に御着任で、おいでになったばかりでございますが、あらかじめパリより講演題目をお知らせいただきました。

もうお一人の方、これも外国の方になることもあるし、日本の方の場合もあるのですけれども、私どもの委員会では考えまして、オリガス先生はたぶん明治時代のお話になるだろうから、江戸時代のお話をお願いしようと考え、京都大学の日野龍夫教授にお願いして、「江戸時代の随筆をめぐって」という題目で講演していただくことになりました。

以上のような次第で、今日は二つに分けて六つの研究発表をお願いし、その後にレセプション、明日は午前中に三つの研究発表、そして午後には公開講演、という日程で進めて参ります。皆さんの御協力によって、この集会が充実したものになりますように、念じております。

最後に二つのことを付け加えます。実は明年は私どものこの国文学研究資料館の創立二十年という年にあたります。それで、かねてから委員会でいろいろとお考えいただきまして、明年は三日間行うことにいたしました。日も決まっております、十一月の十二、十三、十四日、木曜、金曜、土曜の三日間でございます。「近代化の中の日本文学」というテーマを軸にすえまして、もちろんそれ以外の御発表も加えて行うこととし、すでに、この集会のために外国からおいでいただく数人の方の御内諾も得ております。プログラムが決まりましてからあらためてお誘い申し上げますが、どうぞ来年の十一月の十二、十三、十四日を御予定いただきまして御参会下さいますように。

もう一つ、現在二階で特別の展示をいたしております。それは、当館でここ二、三年の間に新たに収集した資料の展示でございます。したがって、とりどりでございますけれども、それぞれの方面ですぐれたものでございます。御覧いただければ幸いに存じます。

いろいろと申し上げましたが、これをもって御挨拶を終ることにいたします。

発 行

平成4年3月

編集兼発行者

国 文 学 研 究 資 料 館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

印刷所

睦 美 マ イ ク ロ 株 式 会 社

〒135 東京都江東区木場6-12-5

電話 (03) 3649-6791(代)